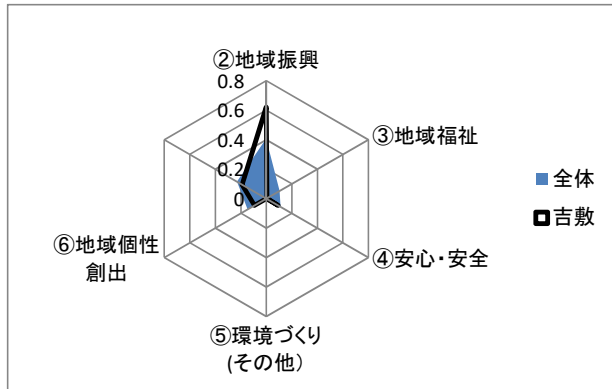


## 吉敷地区地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和4年度)

### ■地域の情報

地域人口	14,618人	自治会数	16
世帯数	6,345世帯	自治会加入率	75.8%

※数値は、令和5年4月1日のもの



### ■決算状況

交付金配分枠	9,892,000 円
交付金決算額	9,762,742 円
その他収入	4,007,864 円
交付金決算額／配分額	98.7%

### 各分野の決算

①協議会運営	7,879,490 円
②地域振興	2,940,826 円
③地域福祉	20,165 円
④安心・安全	432,971 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	440,974 円
⑥地域個性創出	904,298 円
決算総額	12,618,724 円

### ■地域づくりの活動方針(テーマ)

住民一人ひとりが主体的に地域の中でふれあい、ともに支え合う土壌をつくりあげていくことが重要であり「みんな支え合う 笑顔あふれるふれあいのまち 吉敷」をスローガンに、次の5つの分野に地域課題を整理するとともに、地域としてこれから目指していく将来像を掲げ、課題解決に取り組んでいきます。

- 活動目標1「地域振興」ふれあいと交流による元気で住みよいまち
- 活動目標2「地域福祉」ともに支え合い心豊かに暮らせるまち
- 活動目標3「安心・安全」みんなで協力してつくる安心で安全なまち
- 活動目標4「環境づくり」美しい自然をみんなで守る快適なまち
- 活動目標5「地域個性創出」固有の歴史や文化による個性あふれるまち

### ■総括

「吉敷まちづくり計画」をもとに、課題解決に向け地域で活動している様々な団体や行政と連携しながらまちづくりに取り組みました。しかし、今年度も、コロナ禍の影響を受け、中止を余儀なくされたものもありました。

その中でも、ふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進するために、「よしきフォトコンテスト」では、イベントが少なくなったにもかかわらず多くの作品の応募がありました。また、地域ぐるみによる見守り活動の仕組みづくりにも取り組む「ふれあいネットワーク協議会」により、昨年度デザインを更新した一体的な見守りのためのグッズを活用した地域全体での見守りができました。昨年からの引き続きコロナ禍の影響を受けましたが、徐々にコロナ感染拡大防止に努めながらの生活に慣れるにつれ「コロナ禍であるからこそできることは何か」を考える機会が多くなりました。そのような中、様々な交流会をはじめスポーツ事業や秋の祭り「吉敷ふるさとまつり」では、実行委員会メンバーにより、感染拡大を防止しながらでもできることを模索することができました。このように、地域住民や地域づくり関係団体の参画による実行委員会は、地域課題の解決に向けての地域住民の話し合いの場となってきています。同様に、様々なスポーツ交流大会や、講演会などもコロナ禍の中で開催することができました。

また、高齢化の進展により免許証返納の動きが加速化することが見込まれ、自家用車に代わる移動手段の確保が地域住民の看過できない課題となっています。そのため、地域住民の意見を把握するために行われたアンケート調査結果を基にコミュニティタクシー運行を検討する「吉敷地域コミュニティタクシー実証運行協議会」を設置し令和3年度に実証運行が開始され、コロナ禍の影響により実証運行期間の延長を経て、今年度10月から本格運行に移りました。

地域情報を広く地域住民に伝えるために、地域住民と地域づくり関係団体等からの参画を得て設立された広報委員会は、地域の情報の収集や発信に努めながら7年が経過し、この間、地域広報紙やウェブサイトの充実に取り組むとともに、作る側と読む側の双方向で意見交換ができるコーナーを新たに設けるなど、広報紙を手にとっていただけるよう工夫を重ね、取り組みました。地域住民からは一定の評価が得られるとともに、山口県公民館報コンクールにおいては毎年賞をいただいております。今年度は「優秀賞」を受賞しました。

地域の史跡等の案内板設置への取り組みについては、今年度は、肥中街道沿いに一里塚のレプリカを設置するとともに肥中街道を演題とした講演会を開催し、地域の歴史を知るきっかけづくりにも取り組み、多くの地域住民の評価を得ました。

### ■分野別事業名

① 協議会運営	協議会運営
② 地域振興	ふれあいネットワーク、コミュニティタクシー導入事業、夏まつり・ふるさとまつり、よしきフォトコンテスト、人材発掘に向けた交流事業、広報活動、人権学習の推進、こどもドリームプロジェクト、ホテル観賞のタベ、動画による活動団体の紹介、吉敷まちづくり計画の策定
③ 地域福祉	大運動会・多世代交流グラウンドゴルフ、えがお食堂よしき

④	安心・安全	地域防災体制の充実、交通安全・防犯対策、反射鏡の充実、青少年の健全育成
⑤	環境づくり	環境づくり、ホテル増殖・放流事業
⑥	地域個性創出	文化振興

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	コミュニティタクシー導入事業	決算額	70,000円
	目的	旧出張所・公民館跡地を積極的に活用するために、跡地を拠点としたコミュニティタクシーの運行を検討するとともに、高齢化社会に対応するふれあいと交流による元気で住みよいまちづくりを推進します。		
	実施内容	高齢化の進展により、免許証返納の動きが加速化することから、自家用車に代わる移動手段としてコミュニティタクシー導入のため昨年度から取り組み、10月から本格運行に移行しました。		
	実施時期	通年		
	参加人数	地域住民		
	成果	乗車される方々の意見を集約したり、運行ルートの変更を実施したりしながら、乗車率アップに取り組みました。		
	評価	跡地を発着の拠点としたコミュニティタクシーのルートに該当する町内会・自治会との連携を取りながら、実証運行に取り組みました。コロナ禍を受け、乗車率が思わしくなく、運行ルートの変更をするなど、乗車率のアップに取り組み、10月から本格運行へ移行しました。		
	今後に向けて	運行経費の抑制に係る運行日や運行便数の削減に対する効果や課題を今後も検討していきます。		
②	事業名	吉敷まちづくり計画の策定	決算額	320,997円
	目的	安心で安全な住みよいまちづくりを目指し、個性豊かで活力のある自立した地域社会の実現のために地域住民により5ヶ年計画を策定します。		
	実施内容	安全で安心な住みよいまちづくりを目指し、個性豊かで活力のある自立した地域社会の実現のために地域住民により5ヶ年計画を策定しており、総務・企画委員会を中心に住民アンケートや住民座談会を開催するなどし、新たな計画を策定しました。		
	実施時期	通年		
	参加人数	310人		
	成果	住民アンケートや住民座談会を実施することで課題の洗い出しを行い、新たなスローガン「若い世代とともに築く 笑顔あふれるまち 吉敷」を掲げた第2次吉敷まちづくりが策定されました。		
	評価	当地域の計画は地域づくり協議会、自治会、地区社協が一体となって取り組む計画となっており、今回の見直しについても、当地域の特徴である地域一丸となり取り組むことができました。		
	今後に向けて	新たな計画のもと、若い世代を巻き込みながら「自分たちのまちは自分たちでつくる」という精神で、地域の課題解決に努め、住みよいまちづくりに取り組みます。		
③	事業名		決算額	
	目的			
	実施内容			
	実施時期			
	参加人数			
	成果			
	評価			
	今後に向けて			